

国際的な生薬資源の調査・開発～ 薬用植物の遺伝的・成分的多様性の解析～優良植物の栽培化



和漢医薬学総合研究所
教授 小松 かづ子

研究分野

Research area

生薬学 薬用植物学

研究のキーワード > 伝統薬, 資源調査, 遺伝子多型, 薬効成分, 栽培化, 標準化

研究内容

Research content

伝統薬、特に漢方薬配合生薬の持続的利用を可能にする方法を策定する目的で、中国及びその周辺諸国で生薬資源の調査を行い、収集した薬用植物に対して遺伝子多型、成分組成または生物活性等の多面的な評価を行い、既存生薬との同等性または特徴を明らかにする。その結果を代替生薬の開発、特徴に応じた効率的利用の促進及び薬用植物の選択と栽培化に役立てる。一方、安全かつ有効な生薬の基準策定(標準化)にも応用する。

研究のポイント

Research point

- 現地還元を指向した国際共同研究体制を構築した後に薬用資源植物の調査を実施する。
- 生薬の標準化にとらわれることなく広範に薬用資源植物の有用性を、多様性解析研究により見出す。
- 遺伝子多型の解析は分子系統学等を応用し、また成分分析は網羅的解析による評価とする。
- 薬用植物栽培では水耕-圃場ハイブリッド栽培を検討し、作出物の加工調製法の開発までを対象にする。

産学連携への取組、期待

生薬は漢方薬に配合される場合と、機能性表示食品・健康食品等に用いる場合があり、用途が広い。多様性解析研究から標準化への流れはレギュラトリーサイエンスに相当するが、これを踏まえた上での生薬・薬用植物の有効活用は重要である。現在、生薬生産を目的にした薬用植物の栽培研究(地域産学官連携によるブランド生薬の開発に関する研究)の他に、機能性表示食品等の開発を目的にした栽培研究を実施中である。機能性評価については神経薬理学分野の先生との共同研究であり、共同で特許(神経回路網の再構築・賦活剤)を取得している。

研究 REPORT

エゾウコギ(刺五加)の栽培研究

